

保護司国際研修に参加して

山形保護観察所

保護司 高橋 民夫

平成 27 年 1 月 26 日は小生にとって二つの事が気にかかっていました。

第一に翌日からの保護司国際研修への参加でした。アジ研（国連アジア極東犯罪防止研修所）から事前に文書や電話等説明を頂いたり、数年前に参加した先輩保護司さんから大変有意義な研修である旨伺いしましたが、正直、当研修及びアジ研についての知識は参加依頼時までありませんでした。従って果たして事例発表が的確に出来るか心配でした。

第二には翌日の天候が気掛かりでした。当地は今冬積雪が多く、30cm の積雪がある上に大雪注意報が発令され、山形新幹線に影響が心配されました。翌 1 月 27 日当日の朝は小雪になりましたが、冬道専用の履きなれたブーツを靴に履き替え上京致しました。

アジ研到着後まず一階のセミナールームで参加保護司 7 名とオブザーバーのアジ研保護司協力会の 2 名の先輩保護司とでオリエンテーションを受けました。そこで、オリエンテーションに引き続き行われる国際高官セミナーの参加者との意見交換会における発表順が説明され、私は、参加保護司の中で、図らずも第一番目に指名されました。意見交換会のため、2 階の国際会議室に行くまでは緊張で心拍数も上がりましたが、一番前の指定席に着席後は覚悟を決めたせいか意外と落ち着くことが出来ました。

小生は、恐喝・強姦事件の保護観察事例について発表いたしました。同時通訳は初体験でしたので、途中での区切りに戸惑いましたが、何とか発表を終了いたしました。質疑応答に入り、保護司として対象者の更生のため、何を最重点に取り組をしたか、またいつも保護司として心がけていることなどについて、質問があったと記憶しています。発表の内訳は保護観察 4 件・被害者支援 2 件・サポートセンター運営について 2 件・社会貢献活動 1 件でした。いずれについても、国際高官セミナーの海外参加者の皆さんは母国のエリート官僚が多く、日本の更生保護制度に造詣が深く、また、研究熱心で鋭い質問が多く、参加保護

司として非常に勉強になりました。

夕食会及び懇談会では高官セミナー参加者の方々と法務省関係国内参加者やアジ研職員の皆様に通訳の労をお願いし会話することができました。特にイエメンの参加者（内務省更生改革局企画管理部長）からは警察管轄地域が国全土に及んでいないために殺人事件（国内最多の犯罪とのこと）の解決及び処罰は部族長聞の話合いで決定する話は時節柄興味深い話でした。また多くの国の参加者から日本の保護司が自宅に犯罪者を訪問させることに違和感がないのかと聞かれ、国情の違いを痛感致しました。

二日目はアメリカニュージャージー州ラトガース大学刑事司法学部教授ボニータ・ベイジー博士の講義を受講し、所長室にてアジ研所長より修了証と記念品をいただき、解散となりました。今回は、アフリカのケニアやブラジル等、アジア以外の国も含み13か国18名の海外研修参加者の皆様の意識の高さや愛国心に感銘し、また国際化の進展を痛感した二日間でした。アジ研の皆様には大変お世話になりました。当地区保護司会でも機会を捉えてアジ研の活動について広報していきたいと思えます。